

100年の森づくり推進拠点 大豊木材共販所が完成しました



津家地区で造成が進められていた大豊木材共販所（ストックヤード）が竣工しました。

この共販所は、木材の集積から競りまで行われる集積基地として、平成 28 年 2 月に造成工事が始まってから 5 年 5 カ月、総事業費約 15 億円がかけられました。面積は約 3, 7 0 0 0 m²（大杉農村広場がすっぽり 7 個分の大きさ！）もあります。

現在は月 2 回の市で合わせて約 3, 0 0 0 m³が流れていきますが、10 年後の目標として年間約 10 万 m³の取り扱いを計画しています。

この共販所の特徴として、国内最大級の選木機があります。建屋を含め全長 144m のレールに木材を載せると自動で樹種や材長、品等（曲がりなど）、径級（直径）ごとに 50 ポケット分も分けることで、購買者の様々なニーズに応えることが出来るため、販売力強化が期待されます。

共販所長の吉田さんは「大豊の産業と言えば林業。木材を集め山主に還元できればと考えている。今後の町や嶺北の林業を盛り上げる役割を担っていきたい。」と話していました。

林業従事者の増加
山主への還元へ一歩前進

国内最大級の選木機



共販所での流れ



9月は大豊町ゆたかな森づくり月間

森林面積が 88% を超える大豊町で、「山」は次世代へ継承しなければならない大切な宝です。平成 26 年には大豊町ゆたかな森づくり条例が公布されました。町民は、地域のゆたかな森づくりに積極参加し、ゆたかな森づくりに関する施策に協力するように努めることとされています。

森林にいつてみよう

我々の先人は森林と共生し、ゆたかな森林を創り上げてきました。その森林資源を慈しみ、守り育て、利用し、未来へ紡いでいこう。その想いをもって、身近な山々へ足を運んでみましょう。

森林をよくみてみよう

山を歩いてみると、様々な場所に森林があります。その多くは植林（人工林）です。よくみてみると、山の岩場や足場の悪いところにも植林されています。どうしてこんなところにまで？

森林に想いを馳（は）せてみよう

私たちの祖父母、曾祖父母、それ以前の先人達が、便利な自動車や機械のない時代に、背負子（しょいこ）に積んだたくさんさんのスギやヒノキの苗を背負い、険しい山に入り、汗水を流して、至る所に植林をしています。決して自分の代では実ることのない、未来の成長した木々を夢見て、子や孫や、そしてその先の子孫の為に、その光景を想い浮かべたときに、胸を震わさざるを得ません。

森林を紡（つむ）いでいこう

そうした先人達の想いを無駄にしない様に、その想いを受け継ぎ、森林を守り育て、利用し、また新たな森を植えていくことが、私たちの使命なのではないでしょうか。

山へ、森へ、いつてみよう